

## 第09-1号診療記録不開示苦情調査報告書

2009年8月28日採択

### 1. 申立事項

申立者氏名 A

患者氏名 Aの夫(男性) 年齢 86歳(享年)

相手方機関の名称 介護老人保健施設(公表しない)

代表者氏名(公表しない)、住所(公表しない)

開示請求年月日 2009年4月頃

開示されなかった診療記録

診療録、処方せん、看護記録、検査所見記録、紹介状、ケア記録の全部

不開示記録の範囲 2005年10月21日～2005年12月

### 2. 調査経過

調査日 2009年6月24日

医療機関側当事者 施設長他3名

特記事項

調査時点で、正式な開示請求がなかったと説明され、請求があれば開示するとの回答も得たため、調査後ただちに申立人が開示請求書類を作成し、請求した。

### 3. 医療機関側の主張する不開示理由

規約に則った正式な開示請求がなかったためとしている。

2008年9月24日、文書による開示請求を受けたが、その後申立人が家族とともに施設を訪れて話し合いの結果、薬の処方に関する開示請求のみでその他の請求を取り下げられたため(同年10月7日付)、10月9日申立人の弟に交付した。その後、弟から開示請求の取下書を作成したとの連絡があり、申立人の署名・捺印のある取下書を弟宅にて受理した。その後、本件について開示請求されていない。

### 4. 判断

非開示の経過について、申立人が面談相談時に述べた説明と異なる部分も存在するが、2008年に申立人から相手方へ対して行われた開示請求に対しては、薬剤の処方に関する文書を作成し交付していること、その後当初の開示請求をいったん取り下げ、改めて書面による開示請求をしていないことは事実として認定される。

### 5. 調査後の経過

2009年7月15日、申立人へ開示されたことが確認された。

以上